

小牧市人口ビジョンの位置づけ

- ・国の長期ビジョン及び県の人口ビジョンを勘案しつつ、本市の人口の現状分析を実施し、今後の本市の目指すべき将来の方向や、それに基づく人口の将来展望を示す。
- ・総合戦略において、まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を企画立案する上で重要な基礎となるものとする。
- ・対象期間は、国及び県と同じ2060年までとする。

人口の現状分析

【人口】

- ・総人口は、現在の市の規模となった1963(昭和38)年以降、一貫して増加してきたが、近年は、ほぼ横ばいで推移。2015(平成27)年10月1日現在:153,728人
- ・年代別に見ると、年少人口(0~14歳)及び生産年齢人口(15~64歳)が減少傾向にある一方、老年人口(65歳以上)は増加傾向。
- ・少子高齢化が進行し、2005(平成17)年から2010(平成22)年の間に、老年人口が年少人口を上回った。2015(平成27)年10月1日現在の高齢化率:22.4%

【女性の就業率】

- ・全国や愛知県と同様のM字カーブを描き、20代後半から30代前半の就業率が低い。特に、未婚と既婚別に見ると、就業率に大きな差がみられる。

【自然増減】

- ・自然増(出生数>死亡数)を維持しているものの、出生数の減少と死亡数の増加に伴い、増加幅は縮小傾向。

【社会増減】

- ・転入数、転出数ともに微減傾向で、全体として社会増(転入超過)と社会減(転出超過)を繰り返しており、近年は社会減となる年が多い。
- ・2014(平成26)年の年代別社会増減では、生産年齢人口が転出超過。特に、男性の25~34歳、女性の20~34歳が大きく転出超過。
- ・転出先、転入元ともに、近隣市町が多くを占めている。

【交流人口】

- ・愛知県平均(101%)を大幅に上回る昼間人口比率:115%(=昼間人口/定住人口)

【合計特殊出生率】

- ・1.55であり、全国(1.38)、愛知県(1.51)より高い水準。

【他市町との比較】

- ・合計特殊出生率が本市と同程度でも、人口増加率が顕著な市町では、出産年齢人口の増加率が大きく影響している傾向がある。

アンケートによる分析

【生活者アンケート】

- ・移住のきっかけの約半数は「結婚・出産・育児」期。
- ・移住地選定時に重視する項目として「職場へのアクセス」、「実家へのアクセス」のほか、居住環境や育児環境の充実を求める項目が多い。
- ・小牧市は、職場へのアクセスに関しては良いイメージがある。その一方、居住環境や育児環境については、市民の満足度は高いものの、近隣市町住民のイメージは良くない。
- ・約半数が、理想よりも実際の子ども数が少なく、その理由は、「経済的な負担が大きい」や「仕事と育児の両立が困難」が多くを占めている。

【転出入者アンケート】

- ・男性・女性ともに単身での転入(全体の67.2%)、転出(全体の82.4%)が大多数を占める。
- ・その理由として、転入・転出ともに就職等・転職が多い。そのほか、男性の20代・30代では結婚による転出が目立ち、女性の20代・30代では結婚・出産による転出が目立つ。

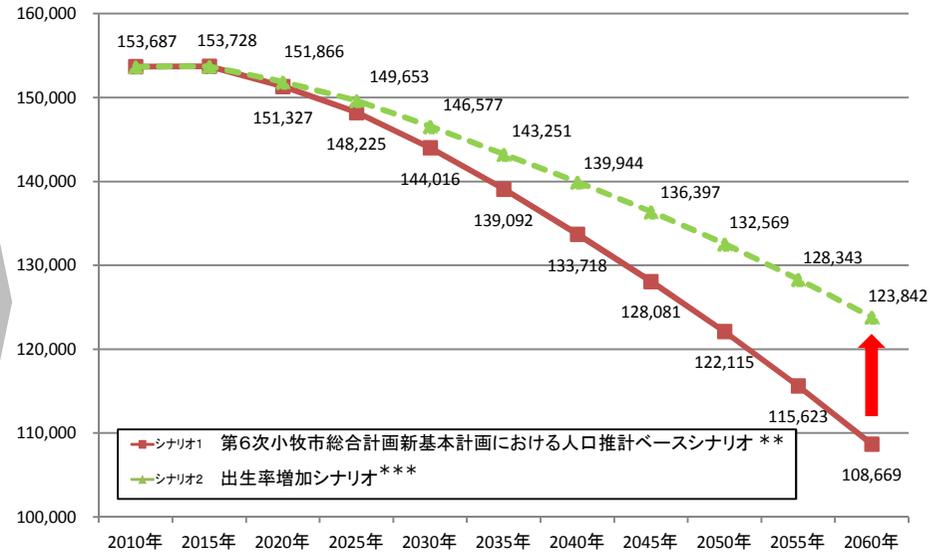
目指すべき将来の方向

- ◆多くの企業が立地する小牧市ならではの強みを活かす
- ◆若年世代の仕事と子育ての両立を支援し、ライフステージに適合した居住環境を提供する
- ◆小牧市の魅力を小牧市民及び近隣市町の生活者に伝える

人口の将来展望

- ◆目指すべき将来の方向に沿った施策を実施することにより、2060年の人口規模を約12.4万人に維持し、人口構造の若返りを目指す。

※2060年の年少人口割合 10.5%(シナリオ1)⇒14.8%(シナリオ2)  
 老年人口割合 35.8%(シナリオ1)⇒31.4%(シナリオ2)



\* 2010年の住民基本台帳の数値を使用して2060年の人口シミュレーションを算出。2015年は住民基本台帳実績値。  
 \*\* 変数(合計特殊出生率、純移動率等)は国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠  
 \*\*\* 合計特殊出生率が、1.55(2010)、1.80(2030)、2.07(2040-2060)と変化すると想定。間の区間は線型的に増加するものと仮定

